

# 阪神水道企業団の概要

阪神地域は、水道水源となる大きな河川がなく慢性的な水不足に悩まされていました。そこで、安定した給水を確保するため、昭和11年7月、阪神水道企業団が設立され、遠く琵琶湖・淀川水系を水源とする水道用水供給事業にとりかかり、昭和17年に給水を開始しました。以来、発展を続ける構成市の水需要に対処するため拡張工事を実施し、現在は1日最大112万8千m<sup>3</sup>の供給能力を有し、その全量がオゾンと活性炭処理を取り入れた高度浄水処理水となっています。



# 猪名川浄水場の概要

猪名川浄水場は、尼崎市北東部、大阪国際空港の南西約2kmに位置している阪神水道企業団の中核浄水場です。昭和34年に着工し、昭和38年に一部通水を開始し、昭和46年に給水能力日量59万5千m<sup>3</sup>の施設（Ⅰ・Ⅱ系）として完成しました。その後、第5期拡張事業により新設の浄水施設（Ⅲ系）を平成3年に着工し、平成5年から一部通水を開始し平成9年7月には日量91万6千9百m<sup>3</sup>の供給能力を有しています。

猪名川浄水場の浄水施設は3系統に別れており、Ⅲ系は設計当初より高度浄水施設を導入し建設されています。Ⅰ・Ⅱ系浄水施設も既設沈澱池を横流式から傾斜管式に改造することにより生まれた用地に高度浄水施設を建設し、平成12年7月から全量高度浄水処理水を供給しています。

浄水処理された水道水は、尼崎市に対しては需要水量に見合うよう配水管圧を調整しながら直接ポンプ圧送しています。また、中継ポンプ場（甲東ポンプ場）の調整池までポンプ圧送し、そこで再度加圧して西宮市、芦屋市及び宝塚市に分水しながら、六甲山中のトンネルを自然流下で神戸市まで送水しています。

■ I系 ■ II系 ■ III系

